

# 各地区業況アンケート結果（29年7月調査分）

（29年7月26日）

全国鉄鋼販売業連合会

7月24日締切で、当会役員151名に対しこのアンケートを行ったところ76名の回答があり（回答率50.3%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※  $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、（数は回答実数）

## 1. 前年同月比DI値プラスさらに続く

問1】貴社の6月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	6	20	33	11	6	76	77
比率	8%	26%	43%	15%	8%	DI+12	DI+5
売上金額/前年同月比	18	20	28	6	4	76	77
比率	24%	26%	37%	8%	5%	DI+55	DI+22

## 2. 黒字企業数は6割半ばまで増加

問2】貴社の6月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	27	23	15	8	3	76	77
比率	36%	30%	20%	11%	4%	DI+83	DI+44

## 3. 民間建設向けがやや増加傾向へ

問3】貴社の営業窓口から見て7月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		11	38	8	3	60	-5	-10
民間建設向	1	19	39	6	1	66	+20	-25
自動車向	1	9	31	3		44	+18	+20
その他需要家向		14	46	9		69	+7	+15
仲間取引		4	41	14		59	-17	-28
計	2	57	195	40	4	298	+4	+4
比率	1%	19%	65%	14%	1%			

## 4. 秋需に期待

問4】貴社における向う8月から10月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	4	44	23	3		74	76
比率	5%	60%	31%	4%		DI +66	DI +72

## 5. 在庫は過剰きみ傾向に

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	品種別	A	B	C	D	E		7月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-32	-27	-30	-24	-38	-28	-19	-26	-21	-28	-17	-31	鉄筋用丸鋼		3	20	9	1	33	-24
-15	-15	-15	-14	-17	-11	-5	-3	-11	-7	-8	-14	構造用丸鋼	1	1	29	4		35	-3
-11	-12	-8	-3	-8	-7	-5	-3	-7	-7	-7	-11	平角鋼			30	4		34	-12
-9	9	4	16	26	58	38	26	21	7	4	-18	H形鋼		4	26	4		34	0
-19	-14	0	4	0	18	0	-23	-4	0	-5	-16	コラム			17	6		23	-26
-10	-8	-10	-10	7	6	2	-6	-3	-3	-7	-10	小形山形鋼		1	29	7		37	-16
-17	-18	-16	-10	7	11	7	-6	-12	-6	-10	-26	中形山形鋼		1	27	8		36	-19
-18	-24	-7	-10	3	15	10	3	-12	-9	-10	-24	溝形鋼			28	8		36	-22
-22	-19	-19	-14	-13	-11	-9	-20	-15	-11	-4	-19	軽量形鋼C形			24	6		30	-20
-17	-28	-22	-20	-20	-20	-12	-19	-10	-9	0	-9	軽量形鋼広巾			16	4		20	-20
-43	-44	-33	-23	-15	4	36	32	39	28	17	9	冷延薄板	1	3	23	3		30	7
-35	-29	-20	-19	-6	-3	21	22	16	17	0	3	熱延薄板		1	28	5		34	-12
-53	-34	-27	-22	-7	26	62	42	58	56	30	16	表面処理鋼板		4	26	3	1	34	-3
-48	-29	-27	-22	-18	33	100	89	85	57	52	32	酸洗鋼板		5	26	2		33	9
-23	-22	-24	-23	-9	3	30	38	23	14	0	-13	中板		3	28	7		38	-11
-21	-20	-24	-23	-6	-5	18	16	10	-3	-6	-8	厚板		2	26	9		37	-19
-4	0	-13	-5	-7	-11	25	22	5	-6	-6	-19	極厚板		1	12	2		15	-7
-21	-17	-14	-11	-8	-14	-11	-11	3	-7	0	-6	縞板		1	29	5		35	-11
-26	-24	-22	-23	-20	-15	-16	-18	-23	-6	-19	-16	中径角		1	27	10	1	39	-28
-26	-17	-12	-17	-16	-15	-16	-8	-12	0	-9	-15	ガス管黒			31	9		40	-23
-31	-25	-16	-15	-17	-13	-11	-12	-9	3	-9	-11	構造用鋼管			31	6	1	38	-21
-24	-20	-17	-14	-8	2	11	6	7	4	-1	-9	計	2	31	533	121	4	691	-14

## 6. 需要盛り上らず、価格転嫁は足踏み状態

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。（答え）

北海道	A	夏以降の大型物件は豊富で、ファブの仕事は満杯状態になると予想される。6月は倉出販売も上向いており、出荷量は予想以上であった。しかし、メーカー値上げの転嫁は依然積み残しがある。高炉と電炉の相違、中央他地区の軟化気配もあり、価格転嫁の足踏み状態が続いている。
	B	北海道の丸棒市況は高止まりである。全国的な市況とは差があり、価格形成に苦慮している。
	C	需要期に入ったが、今ひとつ盛上りに欠けている。
東北	A	4～6月の当社実績は大きく低迷した。原因は需要の端境期で販売数量が減少したこと、新規契約が極端に悪かったことである。ここへきて引合いは増えてきており、明るい兆しも見えるが、新年度の建築案件の入札は低入札による調査が多く、業者が決まらない。
	B	勢いこそないものの民間向けの建築案件を中心として、ほぼ昨年並を維持している。価格も横ばいまたは鋼板を除き弱含みで推移しているが、先行きの不透明感が強くなっているのではないかと。
	C	5月、6月と前年同月比は増加している。7月も増加予想である。オリンピック関連が動き出したか。一次加工も6月後半から動き出している。7月も増加傾向である。8月～10月も上向きである。
	D	下期から物件が多少ありそうだが、大幅に増えることはない。ゼネコンの低入札も増えてくる。
	E	丸棒の新規物件の成約はほとんどない。入札前物件の問い合わせで複数のゼネコンから同じ物件の見積り依頼が入っている。
新潟	A	全体的な盛上りの傾向は感じられない。製造単価が上らず、鋼材単価アップも中弛み状態である。7月半ばも厳しい商いが続く。
	B	値上げ転嫁の勢いが鈍くなったか。品薄感が弱くなり、販売確保へ動いているようだ。先の値上げは唱えているが、簡単ではない。
	C	ファブは秋口くらいまでの仕事が入っているようだが、県内物件は少ない状況。在庫品の荷動きは良くない。
	D	自動車、建機だけでなく、地場産品も漸く動きが見えてきた。
	E	相変わらず需要が少ない。秋需に期待しているが、少し心配である。
	F	（薄板）6月は稼動日連動で全般的に増加。7月以降、暖房などの季節商品や自動車関連も増加傾向。（ファブ）Sグレード、Hグレードは首都圏案件を中心に年明けまで山積みを確認している。秋口案件の具体的な明細で出始めた。Mグレードは小口短納期中心も8～9月まで山積みを確認している。製缶、土木ともに漸く動きが出てきている。（8月以降の見積りも散見される）メーカー値上げ分の転嫁を実行中だが、品種により遅れや停滞感が見られるものもある。
	G	Mグレードファブを中心に秋以降の物件が出始めた。Hグレード以上のファブは依然高水準で受注している。土木は仕事がない。
川口	6月より若干落ち着いた。材料なので、多く出た翌月に減少するのは想定内である。大口取引先は忙しく、小口が暇な傾向は変わらない。	

神奈川県	A	先物物件は見えているが、足元の需要環境は決して良くない。
	B	需要は全般的に低調であり、荷動きが悪い状況である。しかし、限定的ながら、かなり先までの見通しが立っている分野もある。
東京都	A	4月、5月、6月と荷動きは低調である。製鋼メーカーほどの忙しさはなく、先行き不透明である。
	B	(鋼管) 需要先により好不調が鮮明であり、今後もその傾向は続くと思われる。
	C	大きな変化はないが停滞感があり、メーカー、流通は弱気になりつつある。
	D	高炉メーカーによって生産出荷に差が出始めてきた。需要低迷が続けば確実に流通在庫が増え、需給バランスが崩れる公算が大きい。これまで持ち堪えてきた市況の維持に最善を尽くしていきたい。
	E	メーカー値上げの転嫁が進まず、月を追うごとに収益が悪くなっている。
	F	建設、自動車、その他の需要家向け、どの分野も年後半からの引合いが増加している。
	G	5月以降、月を追うごとに僅かながら盛り返しあり。一部A I系産機は好調。その他は平均的な出荷量である。7月中旬以降は土木向け案件が動き出し、加工分野の担当は夏バテぎみである。
	H	6月から7月と特に盛上りもなく過ぎた感がある。ここへきて冷延鋼板の歯抜けサイズがちらほら出てきている。
	I	8月盆明けから建築分野中心に需要回復の兆しが出てくると聞く。一方、足元堅調な建機、産機業界は下期に調整局面に入ると情報が入っている。いずれにしても足元、最大のテーマは値上げである。このまったり感により値上げムードもなく転嫁に苦慮している。
	J	荷動きの停滞とともに価格の値上げも一服している感がある。荷動き悪いと皆口にするが、前年の4～6月から比べると決して悪い数字ではない。思っていた以上に荷が動いていないというマインドの部分が悪いと思わせている。高炉メーカーの更なる値上げを転嫁しなければやっていけなくなる。荷動きや市況は関係ない。
	K	末端の製造業の需要環境は活況ではなく、ずっとこの状況が続いている。そのためメーカー値上げも転嫁に苦労している。
静岡県	A	10～12月あたりの民間建設案件の引合いはある。中型物件が増えているようだ。販価の改善が急務である。
	B	鋼板の仕入れ値上げ分の転嫁は6月に入り、需要減及び安売りも散見され全くできなくなってきている。一部の薄板以外で、各品種とも材料の不足感はない。
	C	ファブは底堅い需要に支えられて、今後の秋季と晩秋、年末まで山が高く、地元有力工務店の見積り案件へのポジティブな対応が感じられない。無理請けする事はない意向か。内作加工賃は間違いなく下っている。産業パレット、冷凍向ボックスパレットなどのジャンルでは単価の過酷な競争が相変わらず続いている。各メーカー値上げの積み残し分、現市況を勘案すると冗談もほどほどにしてほしい程である。コイルにおいては、1級品、2級品、輸入品と判ってはいるが、温度差がありすぎる。建設業界で民事再生法や破産手続き開始などが出てくると範囲が広がりかなりの件数が出てくるのではないかと。

石川		鉄骨単価はやや弱いが採算ラインは守られている。産機業界の職人不足が顕著で加工の消化が進まない。しかし、別の見方をすれば、永く仕事が続くということで良いことである。建設業は土曜休日が増えている。人材集め、働き方改善に向かっている。
富山	A	地域の物件、需要が少ないため競合が激化している。口銭が取れない。
	B	価格転嫁の達成率は6～7割程度。利益率は1～2%ダウンしている。量、質ともに悪化傾向。秋需の見積り案件が増加しており、下期の挽回に期待が高まる。
岐阜	A	建築、建産機ともに荷動きの低調な状態は変わっていない。運送経費も需要が小口化、短納期化しており、増加傾向にある。相場の停滞感があり、品種別に安値が散見されている。価格転嫁が難しい状態が続いている。
	B	忙しい業種と言われても当方の売上割合に反映されていないケースやその逆もある。小口中心だからこのような状態になるのかと、常に建築から機械関係まで情報収集のため広いアンテナをはっている。
愛知	A	良くもなく、悪くもなくモヤモヤ状態が続いている。
	B	6月は向け先に関わらず、前年同月比マイナスの報道では米国、日本ともに景気は悪くないという感じであるが我々の実感とはかなり違う。値上げの転嫁は、会社としては終わったが、相変わらず値上げゼロの業者もある。転嫁の意欲に乏しい商況である。巷間で集購価格が話題になってきたが、忙しくて利益が出ないメーカーは問題である。販売価格がコストに見合う価格になっていないか。合理化努力が足りないか。流通はメーカーがしっかりしてくれないと困る。
	C	板の需給状況は良くなっている。ユーザーでも仕事が遅れていたが待ったなしという物件もあり、動きが良くなっている。価格に不安を感じているが、スクラップ動向を見る限り大丈夫だと感じている。
	D	設備、製缶と仕事を持っている先と持っていない先とがはっきり分かれている。盆明け後の工事も予想より少なそうである。
	E	一般店売りが非常に悪い。自動車などの生産材以外の荷動きは停滞したままである。
大阪	A	多少、公共工事（土木、箱物）も増えてきたが着工は夏から秋以降の物件が多く、足元の動きは低調である。中小物件は賃貸マンション、アパートを中心にまずまずの動きだが、いまだ全体を盛り上げるという雰囲気までには至っていない。
	B	再販価格の転嫁がメーカー値上げにここへ来て漸く追いついてきた。
岡山	A	公共工事の立ち上がりが遅くて、また工事量も少ない。地域の自然災害に立ち向かう業者が苦労している。岡山はきわめて災害が少ない県である。
	B	一次特約店の値崩れが早すぎる。もう少し我慢してほしい。
香川		7月に入っても荷動きは思わしくない。価格もここへきて軟化傾向で価格転嫁などままならない状況が続いている。本格的な荷動きは秋以降のような気がしている。
北九州	A	建築物件に付随する材料および一次加工は堅調に思われる。製缶業者向けの材料は低調だが、ここへきて見積りが多少増えてきており、今後に期待している。販売価格もジリ安だが、辛抱どころである。
	B	小口即納の引合いは増加しているが、底値買いの意識は強く指値が厳しい。対応する店もあるが、安値更新は避け、利益確保に注力している。
	C	相変わらず荷動きは良くない。人手不足で鋼材消費が進まないのか。

福岡	自動車、半導体の仕事は特に忙しく、年内まで仕事量を確保している状況だが、他の業種の動きが鈍い。また、お客様も二極化している。特に短納期受注で、品質、価格はもちろんのことシビアである。信用問題については今のところ大きな変化はない。7月、8月を乗り切りたい。
----	---